

令和5年度『光寿会事業計画』

① 経営感覚を持ちながら利用者受け入れ増に努めます！

経営感覚のない事業存続は困難。収入あってこそ支出が可能となるあたり前の仕組みを意識して利用受入れ増を果たしたい。ショートステイ利用の安定化、ひなたぼっこ通い利用者の増。入居ベッドを満たすサイクルの確立。

【お互いの役割と状況を理解しながら皆で仕事を支える効果】

② 実状の人員体制に合わせて地域ニーズに応えます！（継続）

地域ニーズに応えるため、短期入居事業は R4 年度同様『水～金開所』『4名受入れ』を基本にする等、限定的対応を継続。新人職員や外国人労働者の育成を経て、夜勤対応職員の増をはかった上で受入れ人数増へ向かいたい。

【実状の人員体制を工夫しながら運営持続可能とする効果】

③ ウィズコロナ、お年寄りの^{けんこう}笑顔の時間を増やします！

お年寄りが心から笑顔になれる健康的な時間であるご家族との対面面会（制限付きでは実施中）、自宅への外出、お祭り行事等の開催をどうすれば施設で実現できるか？情報収集と感染対策を講じた上での計画から再出発したい。

【過剰なリスク管理に偏らない発想で取り組めるチーム効果】

④ 脱！病院化対応…生活の場のケアを再構築します！

5月より嘱託医が変わる。回診は毎週火曜日へ変更。嘱託医により光寿苑のお年寄り情報がしっかりデータ化され、治療必要時は迅速に入院対応を図る等、光寿苑での医療行為が軽減される。生活の場のケア再構築を皆で！

【医療行為の軽減によりお年寄りの QOL に重きを置く効果】

⑤ 明日の担い手に出遇える場づくりに貢献します！（継続）

町と町内事業所の協働で取組んでいる小中高校での介護の魅力化事業 4 年目。実話を基にした寸劇や介護のプラス志向の新 3 K を通じ、児童・生徒が介護に良いイメージを持ってもらえる様に臨む。外国人特定技能労働者の確保。

【介護の楽しさ・豊かさを働く私達が自ら発信し深める効果】

あいさつの心得

光寿会の基本姿勢 …『サービスとは、挨拶そのものに尽きる』

- ◎挨拶の「挨」は、
様々ないきさつを投げ捨てて、わが胸を開くことである。
(相手の胸を開かせることではない!)
- ◎挨拶の「拶」は、
「あなたが居てくれることが私の幸せです……」と、
わが胸に相手を抱きしめることである。

3つの基本姿勢

- ① 上司・同僚の話は、身を向けて（ヘソを向けて）、耳を澄まして聴く。
お年寄りを敬い、ニーズを知る訓練の基本。
- ② 居室に入るときは、一瞬立ち止まって、
「彼は今何を求め、何に悩んでいるだろうか」と黙想してから入る。
心の中に余裕を持つ基本。[他のお年寄りにも声掛けを忘れない事]
- ③ お年寄りとの会話は、ひざを折って、目の高さを同じにして話す。
お年寄りと、介護者が平等の立場で話し合うための基本。
特に、相手が興奮状態などのときの会話の基本。

★ 視線は適度に合わせる必要があります。私が全く視線を合わせないと、相手は「冷たさ・無視されている・無関心」を感じます。逆に、視界に入り込んで視線を合せ過ぎると「圧迫感」が生じます。適当に視線を合わせたり外したりすることが必要になってきます。

★ 要するに、24時間365日の認知症ではないですし、いつも興奮している訳でもありません。視界から外れて欲しい時だってあるものです。

⇒ そのような際の上質なコミュニケーション法としては、『縁側効果』（三好春樹氏）があります。横に座って、同じ景色（山、桜、お天気等々）を共有しながら、時折、視線を合せる。そして、共有している景色をきっかけとした言葉を発してみる。これが程よく、よい印象や気分が残りやすいのです。

★ 最後に、関わるすべての人をつなぐことのできるコミュニケーションの最大の表現力は、『笑顔』です。人の習慣は、一般的な人で、21日間同じことを信念をもって続けていけば、その人のものに成るとされています。
心から笑顔で過ごせる習慣を心がけ、続けてみましょう。

(2) 会議・委員会体系図

別表15

